

『海外日本語教育研究』 投稿規定・執筆要領

投稿規定

1. 投稿方法：

投稿は会員であり、かつ申し込みの時点で当該年度の会費納入が済んでいる方に限りま
す。共著論文の場合は筆頭者が会員である必要があります。投稿を希望される方は、学会
ホームページ上にある投稿申し込みの受け付けフォームからご送信ください。投稿申し込
みの受け付け期間内に論文題目を届け出た方に、学会誌委員会から投稿承認の通知ととも
に論文のひな形を送付いたします。本誌は年2回刊で、投稿スケジュールは以下のとおり
です。

※2023年度下半期号から以下のスケジュールに変更

<上半期号>投稿申し込みの受け付け締め切り：3月末日23：59（日本時間）まで。

投稿締め切り：4月15日23：59（日本時間）まで。7月末刊行予定です。

<下半期号>投稿申し込みの受け付け締め切り：9月末日23：59（日本時間）まで。

投稿締め切り：10月15日23：59（日本時間）まで。1月末刊行予定です。

2. 内容：

海外の日本語教育に関する「教育方法」「カリキュラムデザイン」「教材」「評価」「言語
習得」「教育史」「言語（教育）政策」等の研究論文で、未発表のものに限ります。他学会
誌等との二重投稿は受け付けられません。

3. 使用言語：日本語を原則とします。

4. 原稿料：お支払いしません。

5. 審査：

投稿原稿は、複数名の査読委員による審査を受け、その結果を学会誌委員会が取りまと
め、投稿者にお知らせします。審査結果は「採択」「条件付き採択」「次号以降への再投稿」
「不採択」の4つで、「条件付き採択」の場合は、所定の期間内に修正を加え、査読委員の
確認を経て、当該号に論文が掲載されます。また、査読結果によっては研究例会での発表・
報告をお勧めすることがあります。

6. 発行：

本誌に掲載される論文はオンラインジャーナル、ならびに冊子体で公表されます。また、
テーマ別や国別などで再編集して発行する場合があります。

7. 原稿送付先、および投稿に関してのお問い合わせ先：

投稿はE-mailでのみ受け付けます。また、投稿の方法に関するお問い合わせは以下の連
絡先で常に応じます。本誌への投稿をお考えで、研究トピックについてご相談のある方は、
十分な時間的余裕を持ったうえで、各号の投稿申し込みの受け付け期間以前に、学会誌委員
会までご連絡ください。投稿受け付けの締め切りが近づきますと、次の号への投稿をお願い
する場合があります。E-mail kgnk.info@gmail.com（学会誌委員会）

執筆要領

1. 投稿原稿の構成：

投稿原稿は、次の要素から構成されるものとします。この順序で書いてください。

- 1) タイトル（副題をつけることも可能）
- 2) 要旨（日本語 400 字以内）
- 3) キーワード（原稿中の主要名詞句 20 字以内を 5 つまで）
- 4) 目次（見出しを 2 段配列で）
- 5) 本文（図表を含む）
 - ①章・節・項構成は 3 階層までとします。
 - ②注は、脚注とします。
- 6) 参考文献一覧
- 7) 著者紹介

2. 投稿原稿の書式・分量：

- 1) 分量は資料等を含め 18 ページ以内で横書き。
- 2) 1 ページは A4 版横書き 43 字×36 行。
- 3) 本文は明朝体、タイトルと見出しはゴシック体、欧文（英文字の略語も含む）は半角文字を使用し、欧文の書体は century。
- 4) 接続詞および接続詞に類するものは、原則としてかな表記。
例)「従って→したがって／例えば→たとえば」など。
- 5) 補助動詞はなるべくかな表記。
例)「～してみる。／～していく。」など。
- 6) カタカナは全角入力。
- 7) 数字はすべて半角で、算用数字を使用。
- 8) 数、時間、順番を表すときは、1 人、2 つ、3 時、4 回、5 位、10 日など、算用数字を使用。1000 以上の数字は 3 ケタごとに「, (カンマ)」を入れてください。
例)「1,000／189,125」など。ただし、年号表記（原則として西暦）は、「1998 年／2002 年」などとカンマなし。
- 9) マル数字の使用は可能です。
- 10) 「!」や「?」「/」「- (ハイフン)」「“ ”」、括弧類は全角。
 - 11) 「!」「?」の後ろは全角アキ。
 - 12) 句読点は「、」「。」で統一。
 - 13) ルビは、原則なし。
- 14) 図表・イラストを引用、転載する場合は、投稿者があらかじめ著作権者から転載の許可を得ておいてください。また転載する際は、原本の著者名、出版年、転載箇所頁も明記してください。図のキャプションは下部に中央揃えとし、表のキャプションは上

部に中央揃えとします。

- 15) テキストから長文の引用をする場合は、改行し全体を2字分下げてください。ルビや表記は、オリジナルに従うことを原則としますが、読みやすさを考慮して変更も可能です（変更して引用する場合は、事前に許可を得ておいてください）。直接引用の場合には、引用箇所の該当頁数を明記してください。

出典は以下の要領で表記してください。

著者名・出版年、『書名』・出版社名、または「論文題目」・『雑誌名』・該当頁

- 例) 佐久間勝彦 (2006) 「海外に学ぶ日本語教育 - 日本語学習の多様性 - 」国立国語研究所編『日本語教育の新たな文脈 - 学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性 - 』アルク, 33-65

高嶋幸太・関かおる (2014) 『その日本語、どこがおかしい? : 日本語教師のための文型指導法ガイドブック』国際語学社

吉田一彦 (2001) 「埋め込み文をともなう形式「～とき」の名詞句性と時間関係を標示する動詞述語形式-teiru/-teita の交替」『横浜国立大学留学生センター紀要』8, 19-64

そのままの引用ではなく、少し変更を加えている場合も、上の要領で「……を利用」という形で注に出典を入れてください。

URL の場合は、ページタイトル・<URL>および参照した年月日を明記してください。

- 例) 日本語教材<<http://www.kaigainihongokyouiku.co.jp>> (2005年10月2日)

3. 参考文献について：

1) 言語別に分けず、著者の名字をアルファベット順で全部並べてください。

2) 欧文文献に関して

①書名（副題も含む）は斜体。

②副題はコロンのあと。

③以下の順で、例のように記入してください。

著者名・出版年、書名・都市名：出版社名、または論文題目・雑誌名・該当頁

- 例) Sapir, E. (1921). *Language: An introduction to the study of speech*. New York: Harcourt, Brace & company.

3) 和文文献については、前記引用の箇所を参照してください。

4) 共著の場合、和文文献は「・(中黒)」で、欧文文献は「,(カンマ)」でつないでください。

*原稿の体裁や表記法が執筆要領と異なる場合、受理されない恐れがありますので、ご注意ください。

4. 著者紹介について：

氏名（ふりがな付き）と、主な海外教授活動情報を最大5つまで掲載できます。ただし、固有名が特定されないよう、教育機関の種類や特徴のみを明示することとします。

表記例：

【主な海外教授活動の場】

トンガ・政府中等教育機関	2000.12～2002.06
マレーシア・民間語学学校	2004.06～2008.02
タンザニア・政府高等教育機関	2009.08～2010.07

以上

『海外日本語教育研究』
【投稿規定・執筆要領】

2023年4月1日改定